

令和元年度 たつの市まち未来創生戦略推進委員会

日 時：令和元年2月20日（木）
午前10時～午前11時40分
場 所：市役所301会議室
出席者：委員17名、市長、事務局

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 委員長及び副委員長の選出について
委員長に高坂委員、副委員長に徳永委員を選出
- 4 たつの市まち未来創生戦略の取組状況等について
 - (1) 人口推移について
 - (2) 基本目標・施策の検証及び評価について
 - (3) 主な取組について
 - (4) 国の認定を受け進める本市の創生戦略事業について
 - (5) 計画期間の延長について
 - (6) 重要業績評価指標（KPI）の再設定について
 - (7) アクションプラン事業の一部見直しについて
- 5 意見交換
- 6 閉会

－委員長挨拶－

今日こちらに来て、やっぱり「ふるさととは美しい」「ふるさとの人は優しい」と感じました。そんなふるさとを守っていかないといけない。後ほど、説明があるかと思いますが、人口減少が止まらない。県も含めて。地域が、生き残れるかの正念場になっています。そのような中、いろんな人の知恵を寄せ集めて、ふるさとの美しいまちを残していかないといけない。たつの市もいろんな取組をしておられるが、これから、皆さま方のお力を一つに結集して、市長のもと、このたつの市を元気にしていけたらと思っております。今日の議論が、活発になりますよう、ご協力をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

－会議要旨－

事務局より、取組状況等の説明を行い、意見交換を実施。主な意見等の要旨は次のとおり。

「たつの市まち未来創生戦略の取組状況等について」

協議事項

- (1) 人口推移について
- (2) 基本目標・施策の検証及び評価について
- (3) 主な取組について

委員	お嫁さんは、市内の中心部から外れたところより、利便性のいいところを選ぶ。太子町や姫路市は、利便性がいいと聞く。市民乗り合いタクシーは、市内全域が行けない。市内全域に行けるように改善すれば、利便性の向上が進むのではないか。また、高齢で運転免許証を返納したい人がいる。免許証を返納する人には、交通問題が発生する。コンパクトシティを進めるには、駅を中心に考える必要がある。例えば、本竜野駅の東側などに、高齢者用の高層の市営住宅を建ててもらえれば、利便性の問題もなく、他の地域に移らなくてもよくなる。
事務局	公共交通については、南北にコミュニティバスが走っていて、それを補完する形で、市民乗り合いタクシーが、合併前の旧市町の区域を基本として走っているが、旧市町を越えて乗り入れができない。理由としては、交通事業者の民業圧迫と運輸局の基準の問題で、その垣根を突破できないのが現状である。
委員	市民乗り合いタクシーやコミュニティバスをもっと普及させないと利便性が良くなる。若い方は、利便性がいいところを求めて、市外へ出てしまう。市内ぐらいいは、自由に行けるようにしてもらわないと地域は衰退するばかりである。
委員	圏域バスの利用を見ると利用者が少ない。広域の利便性を上げるためには、ニーズをおさえることも重要であり、社会実験なども行われている。ニーズ調査を踏まえた形で、条件を付して、実験をすることができればと思う。結婚の話も出たが、若い方は、出会いの場が少ないということを知る。出会いの場づくりについては、西播磨県民局では、“結婚っていいな”キャンペーンを行っており、応援企業を登録してもらっている。登録された企業には、子育て支援の事例やイベント情報などをお知らせしている。西播磨全体の企業の協力の機運を高めていきたい。
委員	都市部の女性の方で、農業をしたいという人がいる。20人ぐらいおられれば、集団お見合いなどもできる。都市部の方のそういった情報も提供してもらいたい。また、空き家情報や空き家ツアー、農業体験などの情報を阪神間などにも発信してもらいたい。コミュニティバスやデマンドタクシーについては、少数集落では、燃料代が少ない電動カートなどをNPOなどが運転して、住人をつれていくことをやってもらえる。経費がかからないものを考えていかないといけない。
委員	農協に入ったのに、5、6年で辞める人が増えているらしい。農業だけをやりたい人がいる。農協に入ると農業だけの仕事ではない。大学の先生などを通じて農学部学生に、たつの農業というブランドをアプローチしながら、呼び込むこともあったらいいかなと考える。電鉄会社に入って、農業したいと言って辞めた人もいる。そういう方の救いの手を出すような取組もいいのではないか。
委員	PRも必要である。テレビでは、この家を買えば、「これだけの田んぼがついてくる」「この山がついてくる」などやっているが、そういうのを見て、ここで農業をやってみたいとかを思うので、そのような空き家情報の発信もしていただきたい。インターネットで、「空き家 農業」と検索したら、たつの市

	が出るようになってもらいたい。また、これから先は、ビルの中で、野菜を栽培する時代にもなってくる。
委員	若者、特に20代の転出が厳しいということであるが、若者が都会に出て、ライフスタイルや仕事の内容などで違和感を感じ、戻ってきたいという方が結構おられる。第二新卒と呼んでいて、3年間で3割ぐらい仕事を辞められる。そこに地元の企業や農業の話も含めて、情報を伝えることが重要である。兵庫県も大学のキャリアセンターとも連携するが、最近の動きとして、「ひょうごe-県民制度」をやっている、兵庫県だけでなく、県内市町の情報も取り込んで、同窓会、空き家、仕事情報などを配信している。これを例えば高校生など、地元を出ていく前の段階で登録していただくと、就職して、都会に行っても情報が入ってくる。各市町でグレードアップさせて、情報も追加できる。これも一つの有効な手段と考える。
委員	市もそういった情報を県と共有してもらいたい。
委員	今、農学部はブーム。農学部を新設する大学もある。女性も多い。食の安全や健康などの関係もあって。たつの市の農業の情報も農学部がある大学に掲示してもらおうのもいいのではないかな。今、農学部に行きたい学生は、土いじりだけではない。工場やビルでも作っている時代になってきている。
事務局	情報発信のところでいうと、市長からも情報発信が下手であると指摘されている。兵庫県がされているe-県民制度も、市としても一緒にやっていきたい。委員長からも、いろんな取組をしていると言っていたが、他の会議においても、やっていることがなかなか伝わっていないということ言われている。広報・情報発信というところでは、来年度、研究していきながら、マスコミさんのノウハウもいただきながら、進めていきたいと考える。
委員	人口の関係で、自然増減と社会増減があるが、自然増減については、結婚しても子どもができにくい方への不妊治療への支援などの取組もされている。問題は、社会増減の方。Uターン率は把握できないか。また、昔は、家を建てる時、男性のところへ女性が来ていたが、最近の傾向としては、逆転している。娘さんのところに男性が住む。子どもも義理の親より、自分の親の方が預けやすい。男性のふるさとで家を建てるのか、女性のふるさとで家を建てるのか、そういう傾向が分かれば教えてもらいたい。
委員	どちらの傾向が多いか実際のところは分からないが、地元の金融機関として、住宅ローンの相談などでは、イメージとしては、奥さんのお父さんが持たれている土地で家を建てるという相談も多くなっていると感じる。
委員	住宅取得の補助金があるが、リフォーム代や二世帯住宅の補助などがあると、女性の方の家に男性が行っても住みやすくなると思う。Uターンの率は、分かるのか。
事務局	Uターンの数値は、現在のところ測れていない。たつの市へ転入されて住宅を取得された方や市内在住者で40歳以下の方の住宅取得に対して、支援を行っている。今後、そのような方に対して、アンケートを取るなど、数値の把握に関して検討していきたい。
委員	(金融機関において) お客様とお会いする中で、お子さんが、たつの市から出

	<p>てしまっている場合が多い。田舎に戻ると意識が昔に比べると薄れてきていると思う。Uターンも大事だが、日本中にいるどこに住んでもいいと思っている若者をどれだけたつの市に来てもらうかを考えれば、雇用の方が重要かと思う。働ける場所があれば、人は来ると思う。収入があつてこそ、そこに定住できる。</p>
委員	<p>東京の方に、こちらから行っている若者がたくさんいる。その方が、40代、50代になった時に、Uターンしやすいことを考えていくことも重要である。播磨科学公園都市などで、東京にいなくても、こちらでも仕事ができるということを出していけばいいと思う。研究所などの誘致はできないか。SPRING-8は、いろんなものが研究できる。</p>
委員	<p>分譲用地は、あまり残っていない状況。単に物流の倉庫ができるよりは、おっしゃられているような研究所などができる方がいい。この前、自動運転の実証実験があり、1500人ぐらいの方に利用いただいた。公道を50キロで走行するという初めての試みであった。ドローンで薬を配送することも行った。新しいことにチャレンジし、播磨科学公園都市が注目を浴びるように考えていきたい。</p>
委員	<p>播磨科学公園都市は、交通量が少ないので、自動運転の実験もやりやすい。用地がないと言われるが、太陽光に使われているところが多い。まちを活性化させるには、アーバンデザインを撤去していかないと播磨科学公園都市は、企業も進出し難い。日本国内を見ても、看板がないところはまずない。企業も自分の会社のことを売り出しかけたいが、かけられない現状である。派手なこともできない。</p>
<p>協議事項 (4) 国の認定を受け進める本市の創生戦略事業について</p>	
	<p>(意見なし)</p>
<p>協議事項 (5) 計画期間の延長について (6) 重要業績評価指標 (KPI) の再設定について (7) アクションプラン事業の一部見直しについて</p>	
委員	<p>計画期間延長に伴う施策の KPI の再設定について、施策4の「若年者(20～24歳)の転出超過数」となっているが、まだ大学生の年代であるその年代の転出超過数は目標値として意味はあるのか。せめて、30代ぐらいまで入れるべきではないか。就業・人材支援という施策に対するものであれば、年代は考え直した方がいいのではないか。それと、女性が結婚しない、嫁に来ないとのお話がありましたが、今、女性は仕事もしたいし、子どもも産みたいなどいろんな人生の選択肢がある中で、たつの市を選んで戻ってきたいとか住もうとする場合に、何かおもしろいことがないとダメっていうのを劇作家の平田オリザさんなどはおっしゃられている。豊岡市では、平田オリザさんが東京から移住されて、演劇のまちとして世界に打って出ると言われ、</p>

	<p>演劇をするだけでなく、小中学生にも演劇を指導しながらコミュニケーションを教える。外国人が入ってきて、外国人とのコミュニケーションも子どもの頃からできるようにする。そういう楽しいことがいろいろあるまちなら、出ていこうと思わないし、豊岡に興味を持って、住んでみようと思う。たつの市を外に売り出そうとした場合、何が強みかをまず考えた方がよいのではないかと。ヒントになるのが、熱海が最近、リノベーションまちづくり構想というのをやっていて、熱海も町並みが古いので、古い建物を生かしながら、新しい使い方をして再生するというをやっている。そのまちづくり会社の方が言われているのが、100万人が1回来るまちよりも、1万人が100回訪れるまちにしたいということで、たつの市も目指されるべきかなと思う。観光客がどっと入ってくるのではなくて、いろんなところから、何回も来ていただける。その中から、ここに住んでみたい、ここで農業したいなどという人が出てくればいいのかと思う。それぐらい強みを外にアピールして、たつのを好きになって、何回も来てもらえるまちにしていくことが重要かなと思う。瀬戸内国際芸術祭は、2013年から、4回ぐらいやっていて、離島でアートを展示して、外から来てもらおうとしている。それをやっていくうちに、島に移住される若者や海外からもボランティアに来て、そこで仕事を見つけて、そこに住むケースが出てきている。繰り返し来てもらうことをしないとダメ。1回バスツアーをするなど、どこのまちでもやっている。たつの市も重伝建地区が出来たので、そのあたりの強みを磨いて、そこで何か出来るのか、そこでおもしろいことをやっているとか、そういったあたりをPRしていかなければいけないと感じる。先ほど、情報発信をどうすればいいのかの話もあったが、まず、伝える中身がないと発信しても興味を持ってもらえないということがあるので、まず、強みを作っていく。それが何かを、たつの市として議論して考えていかなければいけない。その時は、若い人や学生、移住などで外から来られた方が意見を言えるような場をつくり、強みを磨いていくことや発想を取り入れていくことが大事であると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>働く場所の話がありましたが、今、有効求人倍率が高い状況が続いている。ハローワーク龍野の方に来られる求職者の方の約4割ちょっとは、姫路の就業場所の求人を探されている。3割5分程度の方が、たつのも市の就業場所の求人を探されている。たつの市（の求職者）としては、東に向いている。平均賃金を見ても、ほとんどの業種で、姫路管轄の方が高い。業種によっては、2万円近く差がある場合もある。そのあたりの魅力であったり、少しでも都会という思考のようなものが求職者の動きにあるのではないかなと思う。企業が努力しないといけない部分もあるかなと思うが、労働条件の向上を図っていかないとダメ。それから、働き方改革というところでは、労働者の方が自分が働きたいと思える環境で働きたいということで、企業は、超過勤務に上限を設けるであったり、有給休暇を強制的に取らせるであったりとか、すでにスタートしている。同一労働、同一賃金については、中小企業では、来年の4月からやっていかないとダメ。大きな企業であれば、法律で決</p>

	<p>まったことなので、どんどん取り入れられ、働く環境はすごく良くなる。中小の地方の企業がそのあたりを整備できていないとなると、ますます、賃金以上に労働環境が大企業と差がでる。企業は、職場環境を多様な方が働ける環境を作るといことで動いているので、そこに遅れをとらないようにしないとたつのから人が離れていってしまう。また、高校生が市外へ流出しているという点については、高校生が地域の企業を知らないということで、たつの市は、ガイドブックとかを学校に配布しているが、そこで、終わってしまっているのではないか。企業の生の声を聞くことを授業の中で取り入れることが必要ではないかと思う。大学生については、夏休みとか、学生が戻ってきているであろう時期に、定期的に、会社の説明会など企業をアピールする場を設けて欲しいという声をよく聞く。現在、高校は、学区が広くなったが、それはそれで、姫路の生徒であっても、たつのの企業のいいところを知ってもらえればいいわけであって、企業側のPRの場をもっと設けてはいいのではないか。</p>
委員	<p>龍野地区に住んでいるが、12月の重伝建の選定以来、たくさんの方がたつの市に来られている。今後、重伝建地区は、国の補助をもらいながら、家を改修していくわけですが、それは、年に1件、2件ですが、4、5年続くと、10件ほどの町屋が再生される。出石や篠山などの重伝建地区のように、若い人が入り込んできて、小物屋ができるとか、革細工体験ができるのかなどを期待している。また、先ほどの農業の件ですが、新宮地域で若い方が農業で頑張っておられる。私が取引しているところでも、若い人が3人働いて、2人が女性です。「なんでここで働いているの」と聞くと、「米が作りたい」と言っていた。今後、このような方が増えることを期待している。</p>
委員	<p>雇用を増やすところが、人口を増やすことの肝かなと思う。社会増の方を考えると、「これがあるからここに住む」ということと、「ここに住んで、満足度が上がる、下がる」ということの大きく分けるとこの2つがあるかなと思う。ここに住むというのを決めるには、仕事があるということが一番大事である。委員長が最初に「こんなにたくさんの方の事業をやっているのに・・・」とおっしゃられていたが、雇用の場をつくることを優先して、ここに住むということを重点的に、いろんな資源を配分するのがいいのではないか。雇用の場を作るとなると具体的には、既存の企業を伸ばす産業振興であったり、外から企業を呼び込む企業誘致である。たつの市は、古くから企業誘致をうまくやられていますし、産業振興というところでは、地場産業を育て大きくしていただいております、この2点は、すごく機能している。この部分にさらに力を注ぐのがいいのではないかと皆さんの意見を聞いて感じた。</p>
委員	<p>現在、商工会には、747事業所の会員がおられるが、ここ2、3年、会員が減っている状況である。入会される方より、退会される方が多くなっている。全般的に見て、景気が良くない状況であると感じる。近年、牡蠣だけでなく、素麺についても外国人の研修生を受け入れていて、合計で41名来ている。中国からだけでなく、ベトナムからも来ていただいている。これからも、状況に応じて、取組を進めたいと思う。</p>

委員	<p>婦人会では、子ども子育て支援に取り組んでいる。婚活でも、時期や場所にも考えて取り組んでいる。今年度は、男子20名、女子20名で、男子は、市内在住・在勤、女子は、市外の人も参加され、5組カップルができた。子育て支援については、学校の参観日やイベントの際に、子どもを預かり、お母さんたちを助けることも行っている。</p>
委員	<p>重伝建地区に住んでいるが、空き家をいかに活用していくかの機運が高まっている。この機運を継続していくためにも、私も地域住民の一人として盛り上げていきたい。</p>
委員	<p>お年寄りの方から、市民乗り合いタクシーは、大変ありがたいという意見を聞く。</p>
委員	<p>資料⑥の観光入込客総数の目標値について、兵庫県や他の市町でも次期戦略において、1割から2割の幅で増やしていこうという流れがあるので、集計方法の変更によって下方修正されるというのであれば、変更した時点に遡って、これぐらい伸ばすんだという目標をもってもらいたい。また、転出超過と転入超過の表記があるが、転出超過はマイナスの数字なので、黒三角で表示された方が見ている方は見やすいと思う。</p>
事務局	<p>目標値については、先ほどご指摘いただきました「若年者の転出超過数」の件も含めて検討させていただきたい。</p>
市長	<p>本日は、大変貴重な意見をいただきありがとうございます。先ほどから、聞かせていただく中で、観光資源を活用して交流人口を増やそうというお話がよく出ていました。昨年、日本遺産になりました北前船寄港地の室津と重伝建地区に選定されました龍野地区を生かしたまちづくりをしていきたいと考えておりました。令和2年度の予算についても、そのような施策を盛り込んでおりますので、交流人口は増えるのではないかと考えております。委員からもお話がありました「何回も訪れていただくまち」にしていき、そこに定住していただく。龍野地区に、ある病院の先生が、龍野地区のまちが素晴らしかったと感じていただき、何度も龍野地区を訪れていただいた。そして、住みたいと思っていただき、古民家を買われ住んでおられる。このように来ていただき、そこを気に入っていただいて定住していただく。これが、本当にいい形だと思っています。企業誘致のこともおっしゃられていましたが、市で行っていた企業団地は、すべて完売になっておりまして、企業団地を作らないといけないと考えているが、企業団地を作るには、3年から5年ぐらいかかる。企業誘致を進めるには、いつも申しているのですが、企業が来たいところに市が斡旋し、建物が建てられるようにしたいが、都市計画法などの規制もあり、なかなか建てられないので、県知事の権限で建てられるように規制緩和を行っていただきたい。先ほどのデマンドバスの規制の話もありましたが、地域を活性化するためには、何が必要なのかを国や県が地方の実情を理解していただいて、規制緩和を進めていただきたいという発信をしていきたいと思っています。また、担当も説明しましたが、たつの市もいろいろとやっています。しかし、行政は、PRが下手です。市民の方の力も借りながらPRもしていきたいと思っています。本日、お聞きした意見につきま</p>

	<p>しては、創生戦略に生かしていきたいと考えております。人口減少問題につきましては、特効薬はありません。人口ビジョンでは、2060年に約6万人の人口を維持する目標としていますが、何も対策を取らなければ4万人になってしまう。この問題に立ち向かうために、皆様のご意見を聞かせていただきながら、市と企業と市民が一体となって、創生戦略を進めてまいりたいと考えておりますので、今後ともお力添えをよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>議論も尽きませんが、地方創生については、これで終わる訳ではございませんので、たつの市が元気になるために、みんなで協力していきたいと考えます。</p> <p>戦略の改定については、私と事務局で調整し、委員の皆さんの意見を反映した形で修正し提示します。</p>